

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号（果樹）



令和2年9月18日発表 広島県西部農業技術指導所
対象期間 令和2年9月18日～10月下旬
※次回の予報は令和3年3月中旬頃です。

もくじ

- 1 果樹カメムシ類の発生状況 …P1
- 2-(1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要） …P2
- 2-(2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細） …P3～5
- 3 気象状況 …P6
- 4 お知らせ …P6

※かんきつ地帯は南部を以下の通りに区分
けしています。
西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以東の沿岸島しょ部

1 果樹全般 —果樹カメムシの発生に注意しましょう—

広島県では、6月12日付で果樹カメムシ類に関する注意報を発表しています。県内のチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップへの累積誘殺数（5月第1半旬～9月第2半旬）は、1地点で「多」、残りの4地点は全て「やや多」となっています（表1）。

表1. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～9月第2半旬，単位：頭）

調査地点	本年	現況	平年 ^{※1}	多発年 ^{※2}	多発年以外 ^{※3}
東広島市安芸津町	1741.3	やや多	888.2	2041.9	393.8
福山市神辺町	307.5	多	107.7	159.0	85.7
世羅郡世羅町	625.0	やや多	689.7	2284.3	201.0
庄原市東城町	473.0	やや多	289.5	849.3	49.6
庄原市高野町	677.0	やや多	542.1	1715.3	31.2

※1 平年とは、過去10年の平均を表しています。

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成22, 24, 26年）の平均値を表しています。

※3 多発年以外とは、平成22年以降で注意報発表年を除いた年の平均値を表しています。

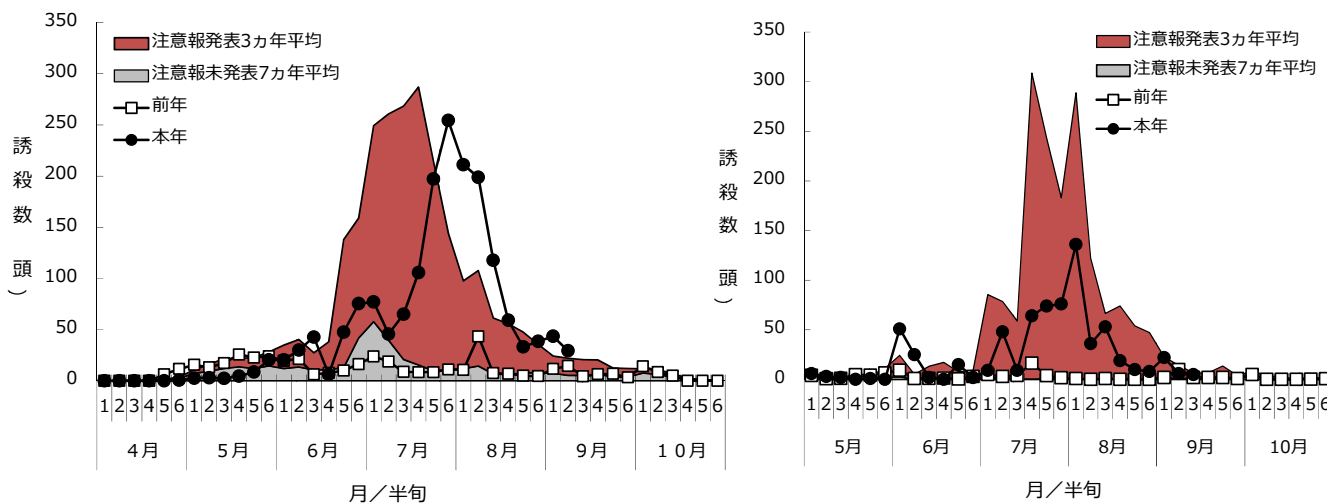


図1. 県内調査地点におけるチャバネアオカメムシの半旬毎の誘殺数
左) 東広島市安芸津町（農業技術センター果樹研究部），右) 庄原市高野町（りんご）

フェロモントラップへの誘殺数は、8月中旬から9月上旬にかけて減少傾向となっておりますが（図1）、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は、薬剤の使用時期を確認し、速やかに防除を実施してください。

※最新の調査データは、広島県のホームページをご覧ください（本予報 P.6 の4 お知らせを参照）。

2-(1)		かんきつ病害虫の現況と予報（概要） 9月11日～15日調査		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）
黒点病	ウンシュウ ネーブル	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前回防除からの累積降水量が 250mm を超える、あるいは前回防除から 1 か月経過したら、黒点病蔓延阻止のため再度防除を行う。 ◆ 収穫期が近いので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。 ◆ 樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため除去し、園外で処分する。
	レモン	やや多		
かいよう病		やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 台風等強風雨前の防除を徹底する。 ◆ ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。 ◆ 発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、圃場から持ち出す。 ◆ 窒素肥料を多施用すると、夏期以降に新芽の発生が増え、感染を助長するため、肥培管理を適切に行う。
ミカンハダニ		並	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。 ◆ 追加防除を実施する場合は、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。 ◆ 抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。
ミカンサビダニ		並 ※一部で発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 特に裾なり、内なり等、薬剤のかかりにくい位置にある果実での発生に注意する。 ◆ 薬剤に対する感受性低下を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。
ナシマルカイガラムシ		やや少 ※一部で発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺する。 ◆ 発生園ではマシン油乳剤による越冬期防除の準備を行う。
ヤノネカイガラムシ		並 ※一部で発生	並	
イセリアカイガラムシ		並 ※発生なし	並	
チャノキロアザミウマ		—	—	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 黄色粘着版トラップによる地区予察のデータでは、8月下旬から発生が急増している地域があるため、着色期に向けての防除を徹底する。 ◆ 第7世代の発生ピークは、気温が平年並みに推移した場合、9月26日と予測される。 ◆ 発生ピーク予測日の7日前～発生ピーク当日の防除が、効果が高いとされている。

2-(2) かんきつ病害虫の現況と予報 (詳細)

黒点病



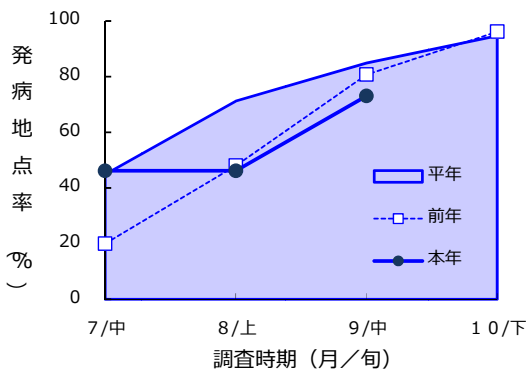
現況	予報の根拠
ウンシュウ・ ネーブル：並 レモン：やや多	◆ 巡回調査ではウンシュウ、ネーブルは平年並、レモンでは平年よりやや多い発生であった (+)。 ◆ 向こう1か月の降水量は多い確率が40%、日照時間は少ない確率が40%と予想されている (+)。
予報	
やや多	

【防除上の注意事項】

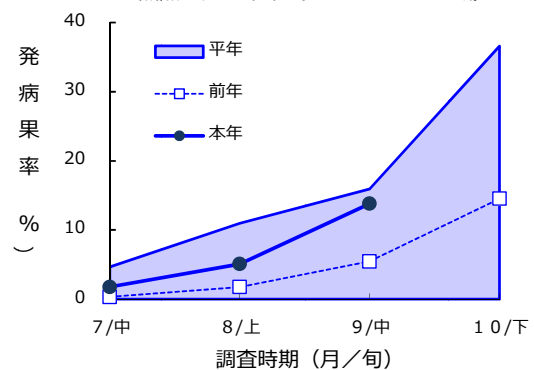
◆ 蔓延を抑えるため、降雨前防除、枯れ枝や罹病程度の大きい葉および果実の除去を徹底する。

【巡回調査データ】

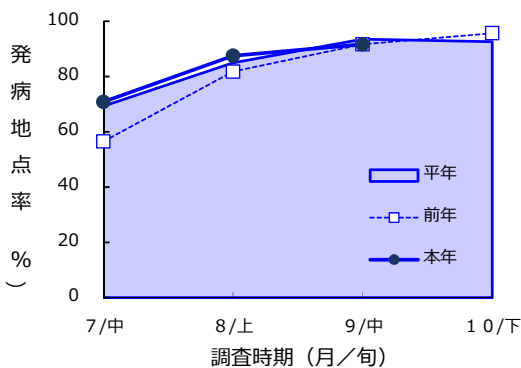
黒点病発病地点率 (ウンシュウ 全域)



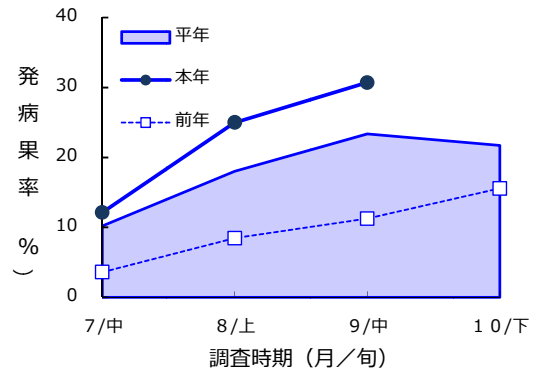
黒点病発病果率 (ウンシュウ 全域)



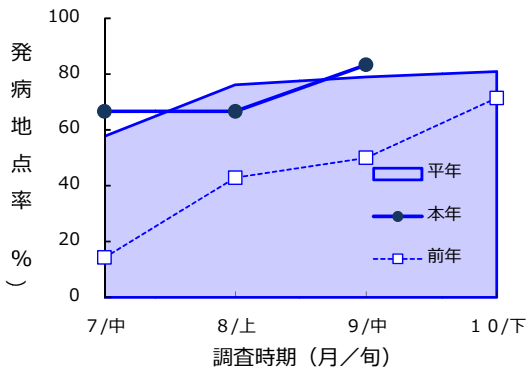
黒点病発病地点率 (レモン 全域)



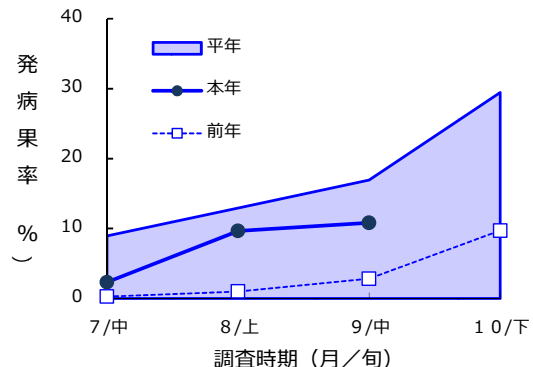
黒点病発病果率 (レモン 全域)



黒点病発病地点率 (ネーブル 全域)



黒点病発病果率 (ネーブル 全域)



(注) レモン、ネーブルの平年値は平成26年からの6年間のデータ

かいよう病

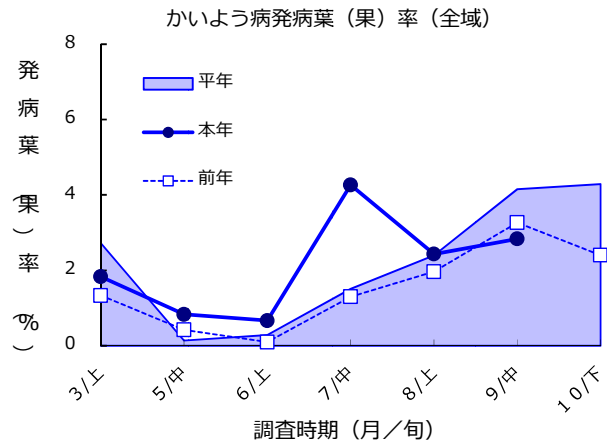
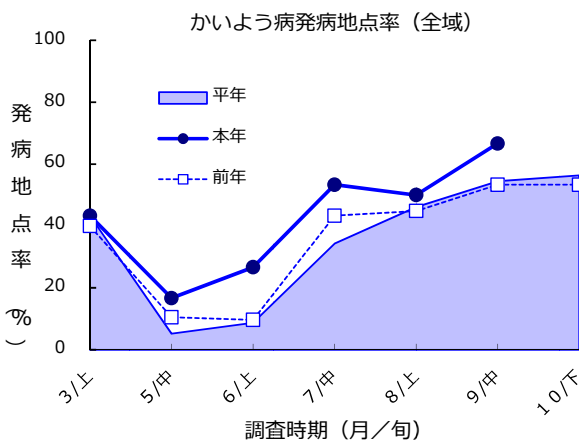


現況	予報の根拠
やや少	◆ 巡回調査では、平年よりやや少ない発生であった(-)。
予報	◆ 向こう1か月の降水量は多い確率が40%、日照時間は少ない確率が40%と予想されている(+).
並	

【防除上の注意事項】

- ◆ ネーブル, レモン, 「はるみ」などは発病しやすいので注意する。
- ◆ 罹病した枝葉および果実は伝染源となるので, 速やかに除去し, 圃場外に持ち出すとともに, 基幹防除を徹底する。
- ◆ 台風等の強風雨襲来前に夏秋梢処理や, ミカンハモグリガの食害痕がある枝の切除を行う。

【巡回調査データ】




(注) レモン, ネーブルで調査

※調査対象部位は, 3月/上; 旧葉, 5月/中~7月/中; 新葉, 8月/上~; 果実

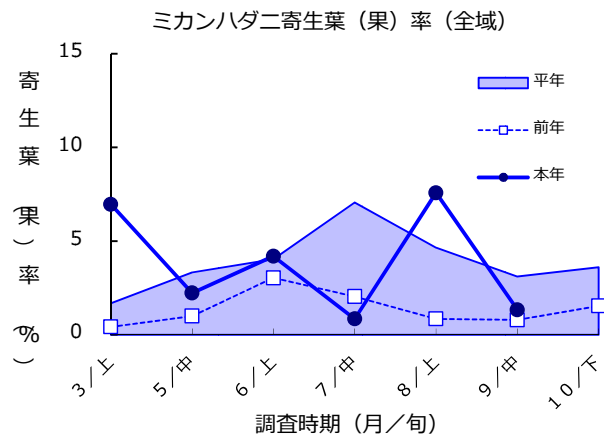
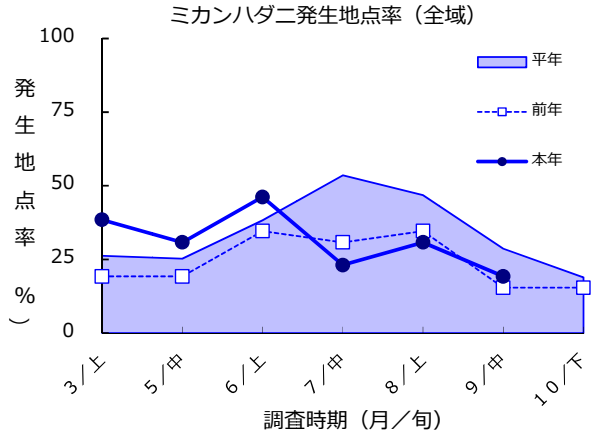
【発生量について】

「予報」「現況」は, 「多, やや多, 並, やや少, 少」の5階級に区分しています。区分の方法は, 原則として, 過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ, 相対比較しています。

- 「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」 : 2~3番目と同程度
- 「並」 : 4~7番目と同程度
- 「やや少」 : 8~9番目と同程度
- 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

ミカンハダニ 	現況	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並み, (-) : 少発要因
	並	◆ 巡回調査では, 平年並みの発生であった (±)。 ◆ 向こう1か月の降水量は, 多い確率が40%, 平年並みおよび少ない確率が30%と予想されている (±)。	
	予報		
	並	◆ 向こう1か月の気温は, 高い確率が50%と予想されている (±)。	

【巡回調査データ】



(注) 調査対象部位は, 3月/上 ; 旧葉, 5月/中~7月/中 ; 新葉, 8月/上~ ; 果実



チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマは, 防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり, かんきつ園に飛来する。果皮を加害されると外観が著しく悪化する。
 この虫は, 気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測することが可能である。防除適期は, 発生ピークの7日前~ピーク当日が効果的であることが分かっている。

例年被害がみられるほ場では表2を参考に, 発生時期に合わせた防除を行う。

表2. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日 (生口島アメダスデータに基づく)

今後の気温	発生ピーク予測日
	第7世代
平年より高い (+1℃)	9月25日
平年並	9月26日
平年より低い (-1℃)	9月26日

3 向こう1か月の気象情報

中国地方1か月予報

(広島地方気象台 9月17日発表, 9月19日から10月18日までの天候見通し)

- ・天気は数日周期で変わるでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、高い確率が50%です。降水量は、多い確率が40%です。日照時間は、少ない確率が40%です(図1)。
- ・週別の気温は、1週目は、平年並みである確率が50%です。2週目は、高い確率が50%です。3~4週目は、高い確率が50%です(図2)。

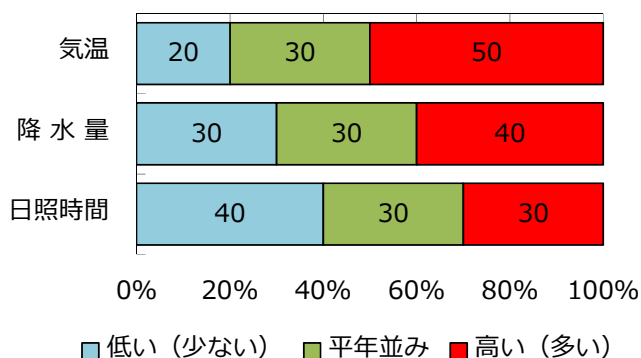


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

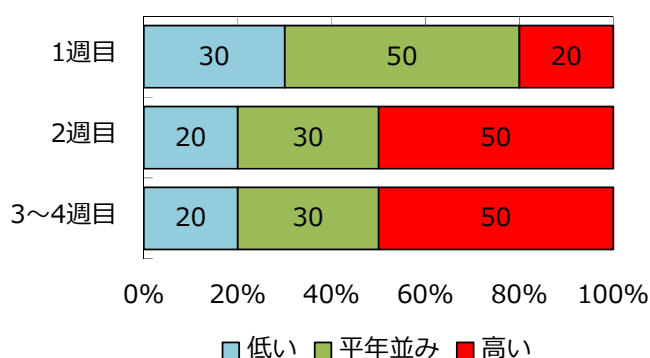


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

4 お知らせ

病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、広島県ホームページで閲覧できます。

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

今回の病害虫発生予察情報に関するお問合わせ先
広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
電話：082-420-9662 (直通)